

思春期・若年成人（AYA）世代がん患者の包括的ケア提供体制の構築に関する研究

「AYA支援チームのモデル作成に関する研究」

研究分担者 山本一仁 愛知県がんセンター中央病院 部長

研究要旨：AYA 世代がん患者支援チームのモデル作成のため、院内の AYA がん患者支援チームの体制整備とそれを基盤にした教育プログラムや地域のネットワークの構築による包括的な AYA がん患者支援チーム体制の整備を目的として、今年度は地域の包括的 AYA がん患者支援構築の基盤となる当施設の AYA 支援の問題点と不足点を拾い上げ、院内 AYA がん患者支援体制整備をおこなった。

A. 研究目的

AYA 世代がんは、稀少がんにも関わらず、疾患構成が多様であることから、医療機関や医療従事者において、診療や相談支援に関する知識や経験が蓄積されにくい。また、AYA 世代に特有の悩みやニーズは多岐にわたり、個別性が高い。このような中、全国に遍在する AYA 世代のがん患者やサバイバー（以下、「AYA がん患者」）に対して包括的ケアを提供する体制の整備が求められている。

研究は、地域の AYA の包括的支援の核となる「AYA 支援チーム」のモデルを作成、2 年目に国内がん診療施設の多職種チームを対象に「AYA 支援チーム」教育プログラムを実施、さらにこれらの活動を通して国内に「AYA 支援チーム」のネットワークを構築することを目的として、計画した。

B. 研究方法

- ・愛知県がんセンターにおける AYA がん診療体制と支援体制実態と問題点（不足点など）の抽出
- ・AYA 診療支援チームの立ち上げ
- ・チーム会議の開催
- ・当施設の AYA がん患者の把握・捕捉体制の構築

（倫理面への配慮）

該当せず

C. 研究結果

愛知県がんセンターにおける AYA がん診療体制と支援体制実態と問題点（不足点など）の抽出をこなし、それを解決するために AYA 診療支援チームの立ち上げをおこなった。チーム会議の開催をしたが、不定期のかいさいであった。また、施設における AYA がん患者の把握・捕捉体制の構築を話し合った。

D. 考察

当院においては、個々の担当医の努力により、AYA がんの診療と支援をおこなっていた。AYA がんの診療に関しては、患者のみならず、医療者もその対応に苦慮するという調査結果もある。来年度は、AYA 診療支援チームの活動を通じて、患者のみならず、医療従事者も支援していくことが必要がある。

E. 結論

愛知県がんセンターにおける AYA 支援体制の整備をおこなった。これを基盤として、地域の包括的 AYA がん患者支援構築に発展させる予定である。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Ohara A, Furui T, Shimizu C, Ozono S, Yamamoto K, Kawai A, Tataru R, Higuchi A, Horibe K. Current situation of cancer among adolescents and young adults in Japan. *Int J Clin Oncol*. 2018 Dec;23(6):1201-1211. (correction: *Int J Clin Oncol*. 2018 Dec;23(6):1212-1216.)
2. Furui T, Takai Y, Kimura F, Kitajima M, Nakatsuka M, Morishige K, Yamamoto K, Hashimoto H, Matsumoto K, Ozono S, Horibe K, Suzuki N. [Current Status of Oncofertility in Adolescent and Young Adult (AYA) Generation Cancer Patients in Japan - National Survey of Oncologists]. *Gan To Kagaku Ryoho*. 2018 May;45(5):841-846. Japanese.

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他